

## 自己評価結果公表シート（令和4年度）

学校法人茨木若竹学園サニー幼稚園

### 1、本園の教育目標

子どもたちがしっかりと、正しく、まっすぐのびる「自分の木」になれるよう、じょうぶな「根っこ」を育みます。

### 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

本年の年間行事計画と「ことば」「かず」「もじ」「描画・造形」「体育」「音楽」「タブレット」の指導計画により、子どもたちの健やかな心と体、豊かな人間関係、環境を思いやる心、ことばの確立、豊かな表現力を育てます。衛生教育・安全管理・防災・防犯の強化を図ります。

### 3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
新教育要領に基づき作成された指導計画の実施。	指導計画に基づいて行った保育と子どもの実態に合わせて検証し、「see・do・plan」を繰り返しながら、教育と実務の充実を図った。
こども園化に伴い、家庭と幼稚園の更なる連携と充実を図る。	職員間での園内研修・情報交換を行いながら、全学年に対する共通理解を深め、長期的な見通しを持った保育を心がけた。未就園児保育を実施した。
環境面から捉える子どもの生活の充実。	少子化・保育園志向が進むなか園児が減少している。クラスの人員が減少しているが、工夫を重ねて、子どもの遊び場、生活の場として各園児に充実した園での生活を送れるように目を届かせてきた。和太鼓遊びを強化した。
保護者や地域との共有（共感的アプローチ）と適正な情報伝達。	保護者からの相談・意見の一つ一つに対して保護者の立場から物事を考えた丁寧な対応に心がけ、また園で起きた事故に関しては迅速な開示と説明責任を果たすことに心がけた。
保育者の採用と研修の充実。	教育の質の向上を図るため十分な職員の確保が必要であり、採用活動を積極的に実施した。令和5年度は新卒1名を採用した。職員少数につき園外研修の参加が困難であったが、園内研修を継続的に行った。研修内容を実践に結びつけた。オンライン研修も活用した。
安全管理マニュアルに基づく安全・防災・防犯体制の確立。	新型コロナウイルスの感染が激増するなか、安心安全をテーマにマスク着用・手洗い・消毒を徹底するとともに、園児に対してもその必要性を理解させた。園庭の遊具の安全性を高めるため交換した。また老朽化した送迎バスの買替えを実施した。防災頭巾着用などの訓練を実施。年長年少がペアになり運動場への避難訓練を実施。消防署と連携した全園児による防災訓練を実施。災害発生の際の送迎バスとの連絡方法などを継続し、安全な受渡しの意識を高めるよう心がけた。各地で発生した送迎バスの園児置き去り事故に対処するために安全確認方法の再確認を行った。耐震化のため建物建替を検討する。

広報活動	ホームページを全面リニューアルし、保護者及び地域の理解を深めるためブログ等を通じて園の日常を配信した。また園庭開放を開始し、地域へのビラ配りなど広報活動を積極的に行った。
------	---

#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組む課題について教職員の共通認識を得ることが出来た。また自己評価表により各自の課題・目標が明確になり、活動内容に全体の歩調を合わせることができたことにより教職員全員の一致した方向が定まった。
---

#### 5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
異年齢児の日常的交流の充実・教育内容の見直し	3～5歳児の部屋を隣同士に配置し、各クラスを仕切るのではなく日常的に交流できる保育環境を意図して作り、さらにふれあいが高まるようにする。教育内容を見直すため、給食回数を増やし、給食の試食会をするなど食育を充実させる。延長保育を19時までにする。和太鼓の課外教室を開設する。未就園児保育を更に充実させるために教育内容を深める。
危機管理(防災・安全対策・情報管理・防犯)	自然災害など発生した際に防災マニュアルに基づき、地域の公的機関(消防署)との連携をとる。耐震化のため建物の工事施工を検討する。情報管理の徹底を周知する。送迎バスに安全装置の取付けをする。
適正な事務処理	必要な公文書の受信・発信など処理を適正に行うよう努める。必要な書類を整備し、教職員に周知し、保育計画やマニュアルなどは定められた場所に保管し誰でもわかるように整備を進めている。

#### 6、学校関係者の評価

学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価の結果、本園の教職員は経験年数によりその共通認識・使命感に差があるが、教諭経験を積み重ねることによりその差は解消されるとみなし、総合的な判定は妥当であると認識された。
--

#### 7、財務状況

公認会計士監査により、適正な運営がされていると認められている。
---------------------------------